



ウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度が始まります！

国会で平成30年度予算が成立し、ついに、ウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度が開始されることとなりました。制度開始は今年12月の見込みです。

ウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度の創設は、私たち原告団・弁護団の最重要課題の一つでした。私たちは、約6年間にわたり、一丸となって、地方議会での意見書採択運動、全国各地での肝炎サポート大集会の開催、国会請願署名運動、国会議員への説明・協力依頼等の活動を地道に続けてきました。ついに、その努力が実を結んだのです。



制度の具体的内容は今後決まることとなりますが、予定されている制度の概要は、以下のとおりです。

対象者: B型C型肝炎ウイルスによる肝がん・重度肝硬変患者で年収約370万円未満の方

対象医療: 肝がん・重度肝硬変の入院医療とし、過去1年間で高額療養費の限度額を超えた月が4か月以上の場合に、4か月目以降に高額療養費の限度額を超えた月にかかる医療費に対し、公費負担を行う。

自己負担限度月額: 1万円

ウイルス性肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度は私たちの悲願であり、この制度が実現したことはとても大きな一歩です。

ですが、今回の制度は、助成の対象となる方が非常に限られているのも事実です。

今後、この制度をさらに拡充していくことが重要です。

今後も原告団・弁護団一致団結して運動に取り組みましょう！

【 弁護士 西山 貞義 】

石川県肝疾患専門医療機関医療従事者研修に参加【原告団代表レポート】

3月3日、ホテル日航金沢で、石川県内の肝疾患専門医療機関の医療従事者(医師、看護師、ソーシャルワーカー等)が参加する研修会が開催されました。この研修会にお招きいただき、原告団代表として、【肝疾患患者の思い～B型肝炎 感染するから伝えられない～】の演題で、患者講義をさせていただきました。

石川県肝炎対策協議会の委員となり3年目。これまでも肝炎患者の一人として、皆様の思い・要望を伝えてきました。患者としての私をしっかりと受け入れていただける協議会には大変感謝しています。

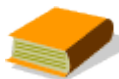
差別偏見は未だにあると思いますが、特に病院では、そのような事は決してあってはならないと思います。医師や看護師はしっかりと理解してくれていると信頼しているだけに、医師や看護師に差別的言動をされると、本当に傷つくと思います。今回の私の患者講義でそのことが伝われば良いなと思います。

私たちは、“感染する”という言葉にはとても敏感になっている事を伝えた上で、3つのお願いをしました。

- 1つ目は、たくさんの肝炎患者がいること(ウイルス検査の促進。)
- 2つ目は、肝炎患者に情報を(複雑で多岐にわたる制度を分かりやすく。肝炎患者支援ハンドブックの活用。)
- 3つ目は、患者への寄り添い(悩んでいる私たちの目を見て、患者の心の声を聴いてください。)

多くの肝疾患専門医療機関には肝炎患者を支える「肝炎医療コーディネーター」がいます。気軽に悩みを相談されてみてはいかがでしょうか。もちろん、同じ病気をかかえた私達仲間がいる「交流会」でお話されてもかまいません。些細な悩みや愚痴を聞き大きな心で受け止めますよ。【北陸原告団代表川上 ゆきえ】

恒久対策委員会 in 横浜が開催されました



恒久対策会議（横浜）に参加してみ

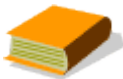
【 福井県・60代・斉藤氏 】

初めて3時間もある全国会議に参加しましたが、とても有意義な時間でした。内容も分かりやすかったです。印象に残ったのは、甲府共立病院でのB型肝炎患者への被害救済活動。看護師等のこの問題に対する理解度が伝わってきました。私は、これまで自分の事だけしか考えていなかったのですが、それではいけない事に気がつきました。札幌での最初の訴訟がこれだけ大きな団体になったのは、皆さんが熱心に活動をされてきた成果で、素晴らしいと感じました。

また、自分の体の状態を認識する事の大切さに気づかされました。アルブミン値が腹水や肝性脳症に大きな影響を与える事にも驚き、病気を知ることの必要性を感じました。

何か、今までの考え方が一変したようで少し戸惑っていることは確かですが、この会議に参加させていただいた事にとっても感謝しております。

また、同じ福井県の原告さん達との交流もできたので、今後も地元交流会等に参加させていただきます。



全国恒久対策原弁会議に参加してみて

【 福井県・40代・女性 】

初めて参加を致しまして、とても有意義な時間を持てました。特に山梨県の取り組みの紹介では、行政と医療機関との協力が出来ていて、とても感銘を受けました。また、世話人さんの働きで患者同士が深く繋がっていると感じました。懇親会では、全国の原告がチーム対抗でご当地イントロクイズをしました。

終始弁護士さんの盛り上げ上手な話術もあり、北陸は大阪との迫力あるチームで、あれよあれよといつの間にか第2位になりました！意気投合して大変な盛り上がりでした。

皆さんを含め私も病気であることを忘れてしまう位に楽しませてもらいました。

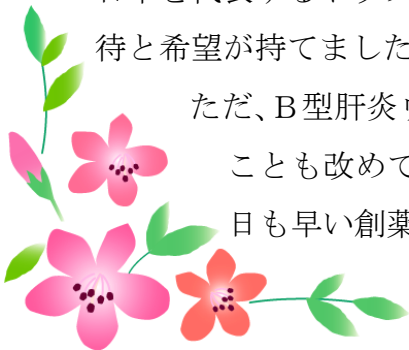
AEMD（平成29年度肝炎等克服実用化研究事業公開報告会）に参加して

私は、肝がん患者となり、新薬核酸アナログ製剤タフを服用していますが、この先どうなるのか不安です。次世代の子供や孫に関わる治療はどこまで進んでいるのか知りたくて参加致しました。最新研究から見えてくる肝炎治療は難しいですが、着実に研究が進んでいることがわかりました。

C型肝炎は治る時代になりました。B型肝炎の完治はどうなっているのかと疑問を抱きながら、日本を代表するトップクラスの先生方の講演を拝聴して、「ここまで進歩しているのだ」と期待と希望が持てました。

ただ、B型肝炎ウイルスは、奥が深いウイルスであり、完全に治すことも難しいということも改めて学びました。特に小児ウイルス患者の死亡率には唖然としました。一日も早い創薬の完成を願うばかりです。

【 福井県・60代・ばあば 】



NO.4 我らの！弁護団員のご紹介

いいもりかずひこ

飯森和彦弁護士【役割】北陸弁護団代表幹事

我らの弁護団員のご紹介をいたします。
弁護士の意外な一面を知ってより一層親しみをもっていただければと思います。

北陸弁護団での役割は？…代表幹事の一人です。

好きな食べ物は？…魚、野菜、そば、牛乳、時に甘いもの

趣味は？…スポーツと音楽を聴くこと。夏はカヌー、冬はスノボ。週末はいつも自転車で移動。音楽はロック。

今までで1番嬉しかったことは？…今ようやく思うことは妻と知り合ったことか😊

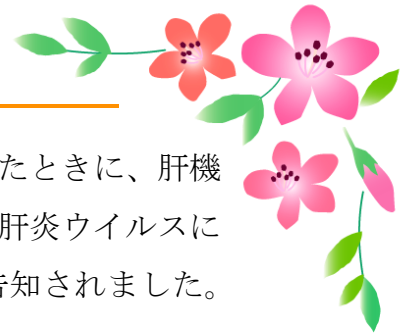
一目惚れをしたことは？…情けないことに何度も。

弁護士になろうと思った理由は？…権力をもたない人々の力になりたいと子供の時に思った。

最後に一言…原告団の皆さんは本当によくやっているなといつも思っています。



「意見陳述」(法廷で述べられた「意見陳述」をご紹介します)



昭和 59 年 12 月、インフルエンザ様症状のため病院で血液検査を受けたときに、肝機能検査値の高値が認められました。昭和 60 年 3 月に肝生検検査で B 型肝炎ウイルスによる慢性肝炎と告げられ、幼少時に感染し、慢性化したものであると告知されました。

当時、結婚話があり、相手の家族にご挨拶に伺った際「そのような感染者に娘は嫁がせられない。娘だけでなく孫にも影響があるかもしれない。」と強硬に反対され、破談となりました。その頃は、医療関係者ですら強い偏見を持っている人がおり、ましてや素人は尚更の事でした。その後何度か縁談話がありましたが、やはりこの病名を話すと消滅しました。未亡人になる覚悟で結婚する人はいません。

その後、昭和 62 年頃には点滴に通わなくてよくなりましたが、月 1 回の検査及び内服薬の服用は続きました。それが 3 年近く続き、平成 2 年頃には月 1 回の検査が 3 か月に 1 回の経過観察だけになっていきました。「あなたの場合は e 抗体もできているので急にどうこうすることはない。」と告げられてほっとしていました。



ところが、平成 4 年 2 月、急に発熱し病院を受診しました。翌日、病院から連絡があり「すぐに来てほしい。救急車で来てほしい位だ。」と言われ、慌てて受診したところ、肝機能の悪化が酷く、そのまま緊急入院しました。前回の採血からたった 2 か月しか経っていないのに、「40」だった数値が「1688」まで上昇していました。病名は「B 型慢性肝炎の急性増悪」でした。テレビ・ラジオ・雑誌等外部からの刺激は一切厳禁で、肝庇護剤の点滴のみで、高熱のための治療は無くただ寝るだけの毎日でした。完全に「死」を意識しました。入院は 90 日続きました。やっと退院し、毎日休みなく点滴に通い、7 か月が経過した頃再び「1000」を突破し再入院、45 日間入院しました。点滴生活は、平成 24 年頃まで続きました。今でも経過観察のため通院しています。

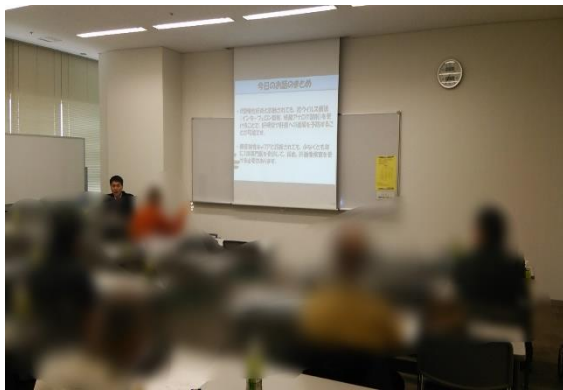
会社にも両親にも大変迷惑をかけました。仕事を誰かに代行して貰わなければならない事、入院中で引継ぎすらままならない事、出張も転勤もできない者が会社にとってどういう立ち位置にいるのかをよく考えて戴きたいと思います。



両親には、大変な心配をかけたと申し訳なく思っております。ただ、親に見送らせること無く、二人共の最期を見送れた事は最大の親不孝をしなくて済んで良かったと安堵しています。

私は時々、「もし B 型肝炎ウイルスに感染していなければ全く違った人生になっていたのではないか」と思うことがあります。それが今よりも良いかどうかは判りませんが、少なくとも今のように縛られた人生ではなく、もっと活動的な人生であったと確信しております。今後、このような思いや苦しみをする人が出ないように、十分な対策をとって戴きたいと思います。【 福井県・60 代・男性 】

石川原告交流会を開催しました(1月14日)



石川原告交流会に参加しました。大雪の影響で参加予定の方が半分近く来ることができず9名だけの参加でした。

金沢大学附属病院島上医師に、最新治療やフォローアップのご講演をいただきました。

キャリアでも年間0.1～0.4%の確率で肝がんになり、がんになりやすいタイプも分かってきたというお話が印象に残りました。私は定期的に通院しておりますが、検査結果をさほど気にしていませんでした。今後は医師から検査結果をもらい、自分でも病気を理解したほうがよいと感じました。 【 石川県・60代・男性 】

富山原告交流会を開催しました(3月18日)

平成30年3月18日、富山県民会館において、富山原告交流会を開催しました。交流会には、原告約30名、弁護士7名が参加。



冒頭、富山市民病院副院長の樋上義伸先生をお招きして、「肝がんにならないために」と題して医療講演会を開催。

樋上先生からは、①B型肝炎の治療ではウイルス量を減らすことが最も大切であること、②B型肝炎ウイルスは、確率的には小さいが症状がない人でも、突然肝がんを引き起こすことがあるという特徴を持っているため、定期的な診察がとても大切であること、③B型肝炎ウイルス自体を体からなくす薬が開発中であることなど、とても分かりやすくお話をいただくことができました。

講演会の後は、原告団・弁護団の活動報告や原告同士が病気や治療のことなどについて語り合う交流会を開催。懇親会も開催し、大変盛り上がりました。今後も、このような機会をもうけていきたいと考えておりますので、ぜひ、ご参加いただければと思います。 【弁護士 西山 貞義】

カウンセリングを行っています

B型肝炎に関する悩みを臨床心理士がお聞きします。相談料は無料で、匿名での相談も可能です。

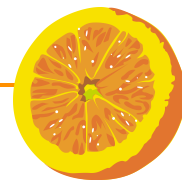


無料相談ダイヤル 0120-882-237 毎週2回(日曜日・月曜日)

相談時間 10:00～13:00、13:30～16:30

※本事業はメンタルヘルス(心の健康)に関するものです。裁判手続きについては各地の弁護団に、治療については医療機関にご相談ください。

今後の主なスケジュール



【 裁判期日 】

金沢地裁

日 時：次回 5月17日(木)午後1時半～
次々回 8月20日(月)午後1時半～
場 所：金沢地方裁判所 202号法廷

※裁判期日はどなたでも傍聴できます
※裁判期日後、報告集会や交流会を開催しております。お気軽にご参加ください。

富山地裁

日 時：次回 7月9日(月)午後1時半～
次々回 10月15日(月)午後1時半～
場 所：富山地方裁判所 1号法廷

※裁判期日はどなたでも傍聴できます
※裁判期日後、報告集会や交流会を開催しております。お気軽にご参加ください。

【 その他の主な活動予定 】

- 6月24日(日) 13時～17時
原告団代議員総会@東京
- 6月30日(土)13時～16時30分
北陸原告団総会・交流会@福井県国際交流会館
第3会議室(福井市宝永3丁目1-1)
- 7月29日(日)13時～17時(時間は未確定)
肝炎デーフォーラム@全電通ホール(東京・御茶ノ水)

■B型肝炎訴訟の提訴者数・和解者数

(2018(平成30)年3月23日現在)

- 【全国】提訴者数 26,373人(被害者数 24,123人)
和解者数 19,776人(被害者数 17,857人)
- 【北陸】提訴者数 677人(被害者数 609人)
和解者数 473人(被害者数 413人)

【予告！】著名医師の医療講演会を開催します！

平成30年10月14日(日)午後1時(予定)より、金沢市内で、東京大学医科学研究所准教授等を歴任され、B型肝炎の創薬に関する最新研究を行っていらっしゃる

千葉大学医学部附属病院 消化器内科

教授 加藤 直也 先生

による、医療講演会を予定しております。最新知識を学びませんか？

講演終了後は、交流会の開催も予定しています。患者・患者家族同士で語り合い、悩みを分かち合いましょう。



編集後記

先日、富山の原告交流会に参加しました。交流会の後の懇親会にも参加。原告のみなさまと一緒に食事をして、たわいもないことを話して、笑い合う。とても大切なことだと改めて感じました。みなさまもぜひ交流会へ。【西山】

弁護団で肝炎ハンドブックをおいてもらえるよう病院にお願いしています。多くの病院は好意的ですが協力していただけない病院もあります。患者さんから「これよかったよ」と伝えていただけると病院の受け止めも変わっていくと思います。【村上】

花粉症持ちの私。巷では3月から4月がピークですが、私は5月から6月頃に症状が出ていました。毎年この時期は憂鬱でしたが、ここ数年は症状が和らぎ、回復しているのでは…と期待しています。さて、今年はいかに。【中澤】